

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月21日(水)

会場:布野生涯学習センター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>石見銀山街道が布野から甲奴までつながっている。一昨年布野町内の「銀山街道 室宿～布野宿」が国土交通省の「夢街道ルネサンス」に認定された。三次町で言えば、大才町から巴橋までが認定されており、ちょうどその前に日本妖怪博物館がある。銀山街道をもっと活かして人を集めてはどうか。飯南町では、毎年、町が銀山ウォークを開催している。三次市観光協会にもそれを活かしてはどうかとお願いした。なかなか手が回らないということであったが、検討してもらいたい。</p>	<p>300～400年前の江戸時代に使っていた道が残っており、今も歩くことができるというのは、大変珍しく、貴重な地域資源であると考えている。現在、大田町・美郷町・飯南町・世羅町・府中市・尾道市・三次市の7市町で日本遺産認定に向けて挑戦を続けているところである。審査においては、日本遺産認定後にこの資源を活かした地域づくりをどのようにしていくかといった方策を具体的に示すよう求められており、人が集う観光的な使い方についても、今後、さらにブラッシュアップして申請をしていきたいと考えている。</p>	
<p>植林したスギ・ヒノキについて、市から三次地方森林組合に指導して、販路の拡大を図ってほしい。森林組合は安くコストに合わないの一点張りである。森林組合に任せるのではなく、市からしっかり指導してもらいたい。現在、日本の木材の輸出は8倍に増えており、東アジアを中心に日本の木が見直されている。国立競技場や首都圏のショッピングセンターも日本の木材を使っているものは盛況である。我々が親と一緒に植えてきたスギ・ヒノキを活用する方策を何か考えてほしい。</p>	<p>現在は、三次地方森林組合が間伐をして市場で販売している。木材価格は一昔前から比べると下がっているが、国産材の需要は高まってきている。森林組合については有利な販売をして、その収益を所有者の方に少しでも還元していこうと取り組んでいると認識している。三次市には甲奴郡森林組合もある。そういったところと一緒に一定程度の量をストックし、需要に応じて有利に販売をしていく取組も今後、必要になるかと思う。今後、森林組合と話をしていきたいと考えている。三次産材を公共施設に利用していく取組も進めていきたいと考えている。</p>	
<p>昔、父や祖父が木材を炭にしていた。そこは公団造林に預けており、帳面上は説明を受けたが、実際に見ていないためよくわからなかった。公団造林そのものの現状がどのようになっているのか教えてもらいたい。</p>	<p>支所を通じて個別に契約書を見せてもらい、話を伺いたい。</p>	<p>※中四国農政局の所管であるのでそちらへ問い合わせるよう、別の出席者の方が質問者に話をされた。</p>
<p>他市に知り合いの工務店がいくつかあるが、三次の森林組合は全然売り込みに来ないと聞く。太田川流域の森林組合はかなり売り込みをしている。非常にもったいない。拡販に努力するよう指導していただきたい。</p>	<p>売り込みについては、森林組合とも話をしていきたいと思う。</p>	
<p>森林の搬出については、庄原市の大朝線(俗に言うスーパー林道)の設置目的の一つに森林資源の排出のために道路をつけるという項目がある。県の管轄であるため、道路をつけるのには県にも責任がある。それも含めて活動をお願いしたい。</p>	<p>スーパー林道の設置については、県の事業にはなるが、第一の目的に森林資源の活用ということがあるので、森林資源の生産拡大も含めて、この事業の推進にあたっていきたい。</p>	
<p>森林資源の有効活用の一つとして、地域で薪ストーブなどの活用を進めてはどうか。個人消費なので、木材会社が大量に買い付けるのとは規模が違うが、若い人に山に興味をもってもらうことが必要なことだと思う。今日、会場を見ても20代～40代の人はいない。若い人に山に興味を持ってもらうためには、バイクや自転車、グルメをとっかかりにした取組が必要であると思う。若い人に興味をもってもらえるようなきっかけづくりを市にお願いしたい。また、仲間が集う場所に安価に薪ストーブなどが設置できるような補助金がわずかでもあったらよいのではないかと。防災面でも役に立っていくことも考えられる。そのような補助金があれば教えてほしい。なければ、わずかでも補助金が出る制度をつくってはどうか。</p>	<p>山や山林に興味をもってもらうことが必要ということについて、貴重なご意見をいただいた。薪ストーブの補助事業は、現在、行っていないが、山林などに興味・関心をもつていただくための取組として、「ひろしまの森づくり事業」があり、子どもや地域など山とふれあう活動に対する補助事業である。それらを活用していろいろな取組ができると思う。そういった活動も一緒に取り組んでいければと思う。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月21日(水)

会場: 布野生涯学習センター

参加者数: 67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>主要な幹線林道の整備・管理が十分されていないと感じる。倒木や土砂の崩落、両サイドから枝が出て危険なところもある。森林資源の活用というが、車で行き来するのにも支障をきたしている状況である。この度、森林環境税と森林贈与税が制度化され、来年から財源も国から出るようなので、主要林道の維持管理がなされればと思うが、考えを聞きたい。</p>	<p>維持管理が十分にできていない点はあるかと思う。県とも連携して支障があるところについては、対応していきたいと考えている。森林環境税はもう少し先の適応になるが、前倒して環境贈与税が交付される。これの使い道としては、個人所有の人工林の維持管理調査に使うこととなっている。今後山林の所有者に意向調査を行っていく予定である。</p>	
<p>布野町の冠山は、広島県にある7つの冠山の中で唯一登山道がない。冠山は三次市及び個人の所有になっており、地主が3人いる。道をつけようとしたが、個人の土地ではなく三次市の土地に道をつけようすると許可が必要で補助金は出せないと言われ、以前は中断した。できれば市の土地であっても補助金が出るようにしてもらえないか。上には横谷小学校の看板まで出した経緯もある。他の冠山ではロードバイクが走ったり登山する人もいる。</p>	<p>実情が把握できていないので、詳しく伺い、補助金の対応についても考えていきたい。</p>	
<p>地域資源の活用に大変興味があり、布野町は農業立国だと思っている。三次の高校生に農業について聞いたところ、泥だらけでかっこよくないが、TOKIOみたいな農業ならしたいと言う。必要なのは若者向けのブランド戦略だと思う。ひいては若者がステータスを感じるようなブランド造成を考えていく必要があるのかなと思う。</p>	<p>農業のブランド化は今後、重要なことだと思う。まずは、三次の農業をいかに発信していくかが重要な要素であると考えている。現在、三次ブランド認定品の登録を行っており、基準を設けて農産物や工芸品を認定し、情報発信を行っている。生産者レベルでは、三次ピオーネは広島県のトップブランドとして位置付いているが、それが故に、その他の生産者にも波及効果がつながって、三次でぶどうを買い求める方にも多く訪れていただいている。生産者組織を作って、より良いものや品質を生み出し、磨き上げてブランド化し、情報発信をしていくということを生産者の方たちと一緒に取り組んでいくことが必要であると考えている。</p>	
<p>銀山街道について、日本遺産の登録をめざして今回3度目の挑戦をされた。3度目も登録に至らなかったことについて、どのように検証されているか聞きたい。また会議に参加した際には、私が一番若く、若者が全然おらず盛り上がらない。4度目の挑戦に向けて、若い人に入ってもらうような取組を市としても取り組んでもらいたい。日本遺産の登録は森林資源の活用にもつながることであると思う。機運を盛り上げるためにも若いチームを作ることがいろいろなことにつながってくると思う。そういった集まりがあれば自分もぜひ参加したいと思う。</p>	<p>結果については、審査員がどのような意見を持っておられるのか、文化庁に直接行って聞いたところ、銀山街道があまりに長いので、どこを訪ねて行ったらよいかわかりにくいとの意見があった。それを受けて、現在は、7市町の担当で改めて、わが市町ではどこを見てもらいたいのか、具体的に案内する人を作ろうと動いている。地元の方や民間の活動をされている方のお力も借りながら、具体的に活性化計画に盛り込みたいという取りまとめも始めている。昨年は、世羅町で銀を積んで歩くことを再現した行事も開催した。これを7市町で順番にこれからも開催していこうという話もある。誇りをもって認定に向けて取り組んでいきたい。またご協力をお願いしたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月21日(水)

会場:布野生涯学習センター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次市民だけで三次市のことをどうにかできるかわからない時代に入ってきており、外部の人の知恵を借りることが大切であると思う。外部の人とつながる仕組みとしては、身近なところで、ふるさとサポーター制度があり、これを活用して三次のファンを増やす取組をすべきである。来年、青陵高校が100周年を迎えるにあたって名簿を作ったが、首都圏にいる人が約100名、そのうち約80名が塩町高校、三次工業になってからは約20名、青陵高校になってからの人は、ほぼ0であった。そのこともあって、首都圏とこの地域とがだんだんと離れていっている危機感をもった。外に拠点をつくっておくことで、中の財産も活きると思う。近年ではTAUでふるさとサポーターの方と交流会をもっている聞いた。ぜひ今年もそういった取組を積極的にやってほしい。</p>	<p>現在、三次市出身者やゆかりのある方、そのような関係がなくても三次市が好きで応援したい方、約750人がふるさとサポーターに登録してくださっている。この制度は、三次市の魅力を全国に発信したり、多くの人に三次を知ってもらって全国各地から応援していただくといった制度である。ふるさとサポーターで首都圏にお住まいの方との交流も行っているところである。今後も県人会や同窓会にも呼びかけて、共感をもっていただける方を増やすなど、さらに充実させていき、様々な方法で三次のファンを増やしていきたいと考えている。</p>	
<p>便坂トンネルの少し上から横谷まで銀山街道が通っているが、日本遺産に認定されたのが不思議である。人が歩けるような道ではない。今は道路も見えず、2箇所ほど崩れたりしている。俗にいう「赤道(あかみち)」(※里道)ということで、予算をとって上布野自治会の18名で草刈りをするようにしている。問題は道路整備についてである。道路は砂利道で水が流れ、車が通れるような状況ではない。草を刈るだけで予算の30万円は無くなり、道路整備まで手が回らない。銀山街道に認定されているのであるから、予算を整備して、誰でも人が通れるように支所と一緒にやっていきたいと考えている。前向きに相談に乗ってもらいたいと思う。</p>	<p>・まちづくり連合会からの補助金30万円で整備がどこまでできるかわからないということで、支所が窓口になって話を進めていきたいと思っている。よろしく願いたい。</p> <p>・国土交通省の夢街道ルネサンスの認定はされたが、文化庁の日本遺産には認定されていない。横谷から草刈りなどで歩くが、全部が全部きれいで歩くことはなんとかできる。もともと車が通る道ではないため、車が通れるところは少ない。昔、人が歩いた道が残っていることに魅力があると思っている。日本遺産に認定されれば、看板整備や道の整備で文化庁から補助金がおろる。認定されればこんな活動がしたいということを書いているが、もっと具体的にしていきたいと思っているので、認定に向けて様々な情報提供のご協力をお願いしたい。</p>	
<p>銀山街道について、本当に人が呼べるようになっていたのか、まず、現地を見て確認してほしいと思う。上布野の信号から真光寺へ抜ける道は、歩くと非常に気持ちの良い道になっている。神之瀬まで行くと、銀山街道かどうかわからない。布野の間には銀山街道という看板があり、説明書きがあるが、それも崩れている。一度歩いて実態を確かめてほしい。</p>		
<p>地域で市道の草刈りを20円/m²で受けているが、最初は刈るだけでよいと言われていたが、今は刈った草を持って行ってくれと言われる。高齢化が進む中、大変な労力になっているため、せめて草刈り賃金の値上げを検討してほしいと思う。今、頑張っている人がやらないとなれば、業者に何倍もの値段で頼むことになる。</p>	<p>・業者に委託する場合は、事業としてやってもらっているため、草をとってもらおうようにしているが、自治会や常会単位でやってもらう場合には、草をとってもらおうお願いまではしていない。人手もかかり、到底その単価では難しいというのもある。</p> <p>・水路の草刈りについては、現地を見て確認させてもらいたいと思う。</p>	<p>9月4日、9月13日現地を確認。除草作業や側溝清掃等の報償費制度等を説明した。</p>
<p>ブロック積みの下に水路がある場所は、その水路の周りの草を刈ると全部水路の中に入る。何年も経つと、水路の中の土が取り除けなくなる。私の地域の水路も同じような状況なので、仕方なく刈って放っている。他の地域の人はどうしているのか、人間の力では無理である。</p>		

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月21日(水)

会場:布野生涯学習センター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>合併後に支所在勤の市の職員が大幅に減っている。地域住民にとって、支所在勤の職員は、生活や地域活動、直接支援、あるいはリードしていただく良きよりどころである。児童や生徒にかかる教育は活発に論議されていると思うが、住民サービスに直結する市職員の力量向上のための教育体系について、まったく見えてこないが、どのように考えているのか。</p>	<p>職員の育成については、「三次市人材育成・基本方針」を策定して、職員の育成に取り組んでいる。職員一人ひとりが問題意識を持って、市民の方としっかりと対話をしながら積極的に行動できる職員を育てることを基本的な考え方としながら取組を進めている。OJTや内部研修、外部講師を招いた研修にも取り組んでいる。新たな市長となり、特に経営感覚をもった職員を育てるということを意識し、よりよい三次のまちづくりのための取組を進めていきたいと考えている。</p>	
<p>今後の市の方針の中に暮らしの安心として地域交通の利便性向上とあり、喜んでいるが、国道54号線の歩道が拡張されることになっており、それに伴い、国土交通省に歩道の整備を市からどのように要望しているのか聞きたい。というのも、簡単なところから実施し、難しい箇所が残っているように感じる。しっかりと要望してもらいたい。例えば、中村地区や河戸地区などが残っているが、河戸地区は特に道の駅の先の布野洞門あたりの歩道が非常に狭く、高校生が自転車通学の際に車道を通ったりしている。また、こぶし団地から三次に引っ越した子どもが、布野中学校に通っていたが、歩道が途切れているところもあった。電動車いすで歩道を通ろうとしたら車道を通るしかない場所もある。市からしっかりと要望して歩道の整備を進めてもらいたいと思う。</p>	<p>国土交通省からは、二井殿地区の辺りの歩道を改修していくということを聞いている。その他については、また見させていただいて、要望していきたいと思っている。</p>	
<p>家の裏に用水路がある。布野町の2~3割を占めている農業用水で、防火用水にもなっている。昨年の災害で、隣の家の裏の二又水路が崩れた。昨年の最後の台風の際に、布野支所に相談したが、二又水路の水利権者で水利組合をつくっているために、市には関係ないと言われた。しかし、布野町の2~3割を占める大切な農業用水であるし、防火用水にもなっているため、行政は関係ないというのは困る。60年は経っている水路なので、こういったものは計画的に改修工事をやってもらわないといけない。近所の方からもそういった声があがっている。かたや水道局は水道管の工事を計画的にされている。防火用水も兼ねているため、公共のものだと思うので水路の改修も計画的にやってもらいたい。</p>	<p>・支所としては関係ないと言ったつもりではないが、水路に関しては、直接市が運営しているわけではないため、水路の関係者の中で話し合いをしていただき、市でできることがあれば担当課へつないでいきたい。</p> <p>・農業用水としてが主な利用形態であるとお聞きした。地元の水利組合もあるとのことで、修繕が必要な状態であれば、水利組合とも話をさせていただきたいと思う。その際は、支所も含めて状況の確認をさせていただければと思う。</p>	